

# 『まちの発展により姿を変えてきた渋谷川』

Shibuya River changed as the town developed

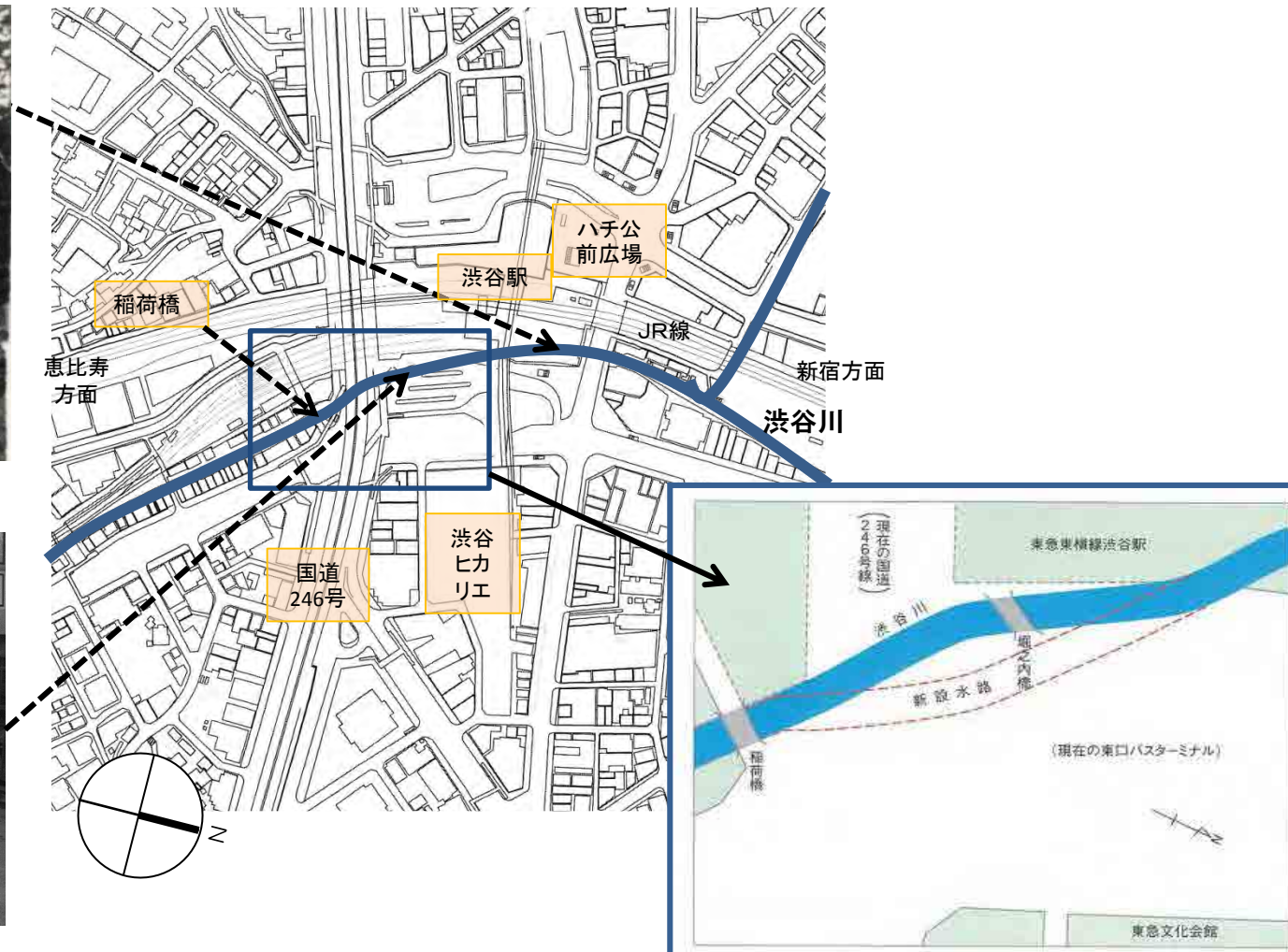
現在、渋谷駅東口の地下を渋谷川が流れていますが、その面影はありません。昭和30年代の高度経済成長期に、首都高速道路や国道246号等の大規模な都市基盤整備が必要となり、渋谷川は、東側に移設し、暗渠化する工事が進められました。



建設中の東横百貨店と渋谷川（昭和8年頃）



渋谷駅前の堀之内橋（昭和34年）



渋谷川移設工事（昭和35～37年）

明治18年（1885）に日本鉄道の渋谷駅が開業した当時の駅舎は現在の埼京線渋谷駅ホーム付近にありましたが、私鉄線（玉川電鉄）との接続等の関係で、大正9年（1920）に現在の位置に移動しました。

その後も昭和2年（1927）の東京横浜電鉄（現東急東横線）の開通、昭和9年の東横百貨店（現東急百貨店東横店）の開業など渋谷駅周辺は、狭い敷地の中で施設が飽和状態となっていました。

戦後は、高度経済成長期のもとで、昭和39年（1964）の東京オリンピックの開催が決まり、渋谷駅周辺も首都高速道路、国道246号、東横線渋谷駅の拡張など大規模な都市基盤整備が必要となりました。

そのため、渋谷駅直近の渋谷川は、昭和35～37年にかけて東側に移設し、稲荷橋から上流を暗渠化する工事が行われました。

改修前の渋谷駅側（昭和35年）



稲荷橋から上流（堀之内橋）方向を見る。この後、川は右側に移設される。

渋谷川移設工事（昭和36年）



ふたをかけた状態で新水路（護岸）が一部完成しているが、水はまだ旧水路を流れている。

東急東横線渋谷駅解体前（平成25年）



国道246号東口歩道橋から左の写真とほぼ同じ方向を見る。川や橋の痕跡はまったくない。

解体撤去中の渋谷川旧護岸（平成26年）



区画整理事業中に一時的に姿を現した昭和30年代に作られた渋谷川の旧護岸。駅側からバスターミナル方向を見る。